

第4回那覇空港調査P.I.評価委員会
議事録

1 日 時 平成18年12月4日(月) 13:00~15:00

2 場 所 沖縄ハーバービューホテル2階 金鶴の間

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

琉球大学名誉教授	上間 清
フリージャーナリスト	崎山 律子
琉球大学工学部教授	堤 純一郎
淑徳大学国際コミュニケーション学部教授	廻 洋子

(2) 那覇空港調査連絡調整会議からの参加

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官	成瀬 英治
国土交通省大阪航空局飛行場部次長	梅野 修一
沖縄県企画部参事	長田 信
内閣府沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所長	三宅 光一

(3) 内閣府沖縄振興局からの参加

内閣府沖縄振興局参事官(振興第三担当)付専門官	篠 良一
-------------------------	------

(4) 国土交通省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課空港計画企画官	大津 光孝
------------------------	-------

4 議事

(1) 開会

司会

那覇空港調査P.I.評価委員会を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

私、本日、進行役を務めさせていただきます交通政策課長の中村でございます。

よろしくお願いいたします。

(2) 委員及び出席者紹介

司会

それでは早速ですが、本日ご出席いただいている委員の皆様、並びに関係者の方々をご紹介させていただきたいと思います。

P I 評価委員会の委員の方からご紹介いたします。

琉球大学名誉教授で、本委員会の委員長であります上間清委員でございます。

淑徳大学国際コミュニケーション学部教授であり、国土交通省交通政策審議会委員であります廻洋子委員でございます。

琉球大学工学部教授の堤純一郎委員でございます。

フリージャーナリストの崎山律子委員でございます。

なお、大城浩委員は本日は、ご都合で欠席でございますのでよろしくお願ひいたします。

引き続きまして、事務局のメンバーを紹介いたします。

沖縄総合事務局開発建設部の成瀬港湾空港指導官でございます。

沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所の三宅所長でございます。

大阪航空局飛行場部の梅野次長でございます。

沖縄県企画部の長田参事でございます。

沖縄県企画部交通政策課の上門班長でございます。

なお、今回はオブザーバーとして国土交通省航空局飛行場部計画課の大津空港計画企画官と、内閣府沖縄振興局参事官（振興第三担当）付の篠専門官のおふたりがご出席でございます。

以上で出席者の紹介を終わらせていただきます。ここからは議事進行につきまして、上間委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(3) 議事

上間委員長

それでは、これから第4回那覇空港調査 P I 評価委員会を開催いたします。

今回は P I ステップ 2 が済みまして、その実施報告の内容について、案を示しました後、皆様のご意見をいただきたいというのがメインのテーマでございます。

事務当局から詳しい報告があると思いますけれども、それをお聞きになっていろいろご意見を賜りたいと思います。来年はステップ 3 の調査に向けての新しい課題もあるかも知れません、それについてもまたご意見を賜ればと思っております。

それでは早速、議事に関して資料の説明をお願いしたいと思います。資料がたくさんございますけれども、この確認からお願いできますか。

事務局

それでは、説明に入る前に配布資料等の確認をお願いしたいと思います。

1枚目が、那覇空港調査 P I 評価委員会の次第でございます。次第の下のほうに配布資料等を示しております。2枚目が、配席図でございます。その次に、那覇空港の総合的な調査に係る P I ステップ 2 の実施報告書でございます。

その次に、同じ P I ステップ 2 に寄せられた意見でございます。失礼しました。その前に、資料 2 としまして実施状況がございます。

資料 3 のほうが、P I ステップ 2 に寄せられたご意見でございます。

そして、参考資料 1 としまして、那覇空港調査報告書 2 です。この縁の本でございます。

その次に、参考資料 2 としまして、その概要版、これは青の本でございます。

参考資料 3 としまして、第 3 回 P I 評価委員会での主な助言と対応ということで、これは 2 枚の A 4 用紙でございます。

最後に、参考資料としまして、P I ステップ 1 のアンケート表、これを添付しております。以上、不足はありませんでしょうか。

それでは不足がないようですので、説明に入らせていただきます。

今日の説明は特に、P I ステップ 2 実施報告についてということで、使う資料がこの資料 1 の実施報告書（案）をメインに説明していきたいと思います。その説明をするときに資料 2 としまして、実施状況、これは活動状況の写真等を載せてございます。あわせてご覧いただきたいと思います。

では、資料 1 の実施報告書のほうの説明に移っていきたいと思います。

（P I ステップ 2 実施報告について説明）

（CM 30 秒版、説明会用 VTR ダイジェスト版 映写）

上間委員長

上門さん、ご苦労さまでした。

資料の実施報告書案、これを中心に説明いただきました。

それで今日のこの委員会で何をするべきかというところを簡単に私なりの理解を申し上げますと、まず評価の視点が 4 つありましたということですね。ページ 1。その評価のそれぞれに基づいて今回の P I の調査がどうだったかということを説明して、その評価をしていると。まず、ページ 10 で視点 1、活動が適切に行われたかということについて評価をしてあります。それから、次の視点が 13 ページ、提供した情報は周知されたかについての評価があります。それから、17 ページに評価視点の 3、情報はきちんと理解されたでしょうかということに対してこの P I 活動の結果を評価していると。それから 21 ページ、これは回答なさ

れた方々がいろいろ自由な意見を書いていただいてあります。これが800人でしたか、それを整理すると2,000何件かになっておりましたということで、これに対する評価ですね。21ページで広く意見に対応したのか、これが評価の第4点目だと思います。

最後にこれをまとめて24ページに、これまでの各視点に対する評価も含めてでございますが、視点ごとの評価、それから総合的評価を含め、それからこれを今後の課題としてこういうふうな点を指摘したらどうかという案でございます。本委員会ではこの評価の内容でいかがでしょうかという案をまず事務局当局につくっていただきて、これをこの委員会でどうですかということだと思います。どうぞ、あまり委員長がしゃべってはいけませんので、ただいまの報告を聞かれてご感想なり、こういうところはどうなのかという質問なり、どうぞお願ひいたします。

堤委員

私もちょっとだけ協力いたしまして、琉球大学で説明会をやっていただいたんですけれども、残念ながら非常に意識が低くてあまり集まらずに申しわけないことをいたしました。

それはそれとしまして、意見を寄せられている数が非常に増えたというのは嬉しいことの反面、PIで調査報告書を出している内容とあまり関係ない意見もたくさんあるということもわかりまして、ちょっとPIの意味合いが、ある人にとっては非常に前のめりになっているし、ある人にとっては引いて見られているという両極端に動いている感覚をもったわけです。こちらの意図としては現状を知っていただき将来構想をある程度出すと。そういうステップ2のお話だったわけなのですが、それよりももっと前のめりに考えて、これからどうしたらいいとか、あるいはもうすでに防衛線を張っていて、これはもう必要ないんだという話までいってしまう自由意見が多数見られるわけですね。そういう点がちょっと意図した話と若干違う方向で出てきているのかなというのが感想としてあります。その点はつくり方が悪いとかそういう問題ではないと思うんですけれども、もっと何か自由に言わせるところもあっていいのかというところもちょっと感じた次第です。とりあえずそういうことで。

上間委員長

ありがとうございました。どうぞ。

廻委員

まず今のビデオなんですけど、「PI」という言葉だけになっているので、やっぱり「PI」という言葉は業界語なので、普通の人はわからないという前提に立ったほうがよかったかなと思いました。

それとは別に、今の堤先生のお話とも関係があるんですけれども、今回の調査、理解されたか、あるいは幅広く意見が出てきたかということを検証するには、P Iの広報をもう少し、次のステップ3に向けて分析するようなことが必要かなと思いました。

どういうことかと言いますと、ステップ2をやって、私はこの間休んでしまってあれなんですが、ある手法から始まって表も書いてあるところがやっぱりそうかなど、考え方方がちょっと違うかなと思うんですけれども、例えば7ページとか。P I開始の周知・広報と書いてありますし、手法から入っていますが、通常は目的から入って、何のためにP Iをやっているということを知らせるのか、内容を詳しく知らせるのか、女性も広く幅広く、だれに対して何を知らせるべきなのか、それに対して手法があって実施内容がある。その結果が、目的と手法と実施内容がうまく合わなかったら、やっぱりこれはもう1回見直したほうがよかったなと。このメディアは向かなかつたなとか、あるいはこれはよかったです、今度はステップ3のときにこういうふうに生かしていこうということがわかると思うんですね。

ですから、まずは目的とか、対象をはっきりさせて、それで手法、メディアというのが出てくると思うんですね。ですから、そういうふうな考え方を、実際にこの前ステップ2をやったことを分析するときに、頭の中の整理としては目的が何だったかなど。のためにこの手段でよかつたのかなど、もしかしたらこの手段じゃないほうがよかつたかもしれない。あるいは手段が悪かったのか、そこにはあったコンテンツが悪かったのか、あるいはよかつたのかということはちょっともう少し考えてみて、例えばステップ1、ステップ2、ステップ3は段階が違いますから、同じステップ1でよかつたメディア、あるいは手法がステップ3でいいとは限らないので、そのことも目的を今度ステップ3をやるときに目的をクリアにして、その目的に合わせたコンテンツとか、メディアの選択、あるいはイベントとか、だれに対してどこで、いつ頃やるのか、どれが一番いいのかというようなことを次に考えるためには、そういう分析も必要かなと思いました。

上間委員長

ただいまのご意見、貴重なご意見だと思いますので、目的をしっかり考えて、手段とか手法と言いましょうか、マスコミ、PR等の対象の選択だと、コンテンツとおっしゃいましたけれども、内容の検討、そういうことを分析する必要があると、こういうご意見だったと思います。何かコメントございますか。

事務局

2年目ということで少し手探りの状況から、役人の悪いところとして、前回をやっぱり踏襲してしまうというところが実際あるのかなと、前年やったのでそれをベースにしてという考え方でどうしてもやってしまうところが多々。その点、検

討が十分でなかった部分もあるかもしれませんと思います。いただいたご意見、また、具体的にどういう反映をするか、また事務局のほうでもいろいろ考えて、また来年度の P I 評価委員会の際にこういう考え方で対応しますということをご報告したいというふうに考えております。

それから、今、見ていただいたのはダイジェスト版なので、本当の D V D の中では、P I というのはパブリック・インボルブメントで、こういうことをやっていますというのは前もってご説明した上でビデオのほうもスタートしていますので、そのへんは補足させていただきたいと思います。すみません。

崎山委員

お疲れ様でした。私のほうから 3 点ほど。

まず資料 1 の 7 ページのテレビ CM の放映、40 回、1 か月間ということで県内民放 3 局で放映したということになっていますけれども、40 回というのは、3 局のトータルで 40 回ということですか。

事務局

そうです。

崎山委員

これは時間は。スポットだと 15 秒とか 30 秒ですね、テレビの場合。

事務局

15 秒間です。

崎山委員

できましたらここで 15 秒、どんなコマーシャルだったかということを。あるんでしょうか。

事務局

ないです。

崎山委員

ないですか。できましたらそういうのを。先生、ご覧になりました？ コマーシャル。テレビで。

上間委員長

見ましたよ。

崎山委員

私、見てないですよ。それで見せていただきたかったなと思ったんです。先生、意識してご覧になったかもしれません、日常生活の中で民放3局で40回で15秒というと、探すと結構大変ですよ。時間帯にもよりますが。

せっかくですので、これやっぱり費用がかかっていると思うんですよね。これからも効果的にステップ3へ続くためには、それをどんなふうな効果があったのかということを把握するためにも、どの時間帯だったのか、それから15秒が適切だったのか。その15秒の中身もできればぜひ知りたかったなというのが1つです。

それから、A3判の22ページ、具体的な寄せられた意見と意見に対する対応ということで、私たちがやったこと、あるいはかかわったこと、そして皆さんのが進めたことが直接生の声で届くのがこの2枚に込められていると思いますが、この中でいうと、一番最初のP1の取り組みに関するご意見の中で、全部で259件。そして166件の内訳を見ると「わかりにくい」が73件。「わかりやすい」が59件。「内容を充実すべき」が34件になっています。分けられていますが、実は「内容を充実すべき」というのは「わかりにくい」のほうに本来は加わると思うんですね。これはなぜかというと、私たちこの委員会でどう情報伝達をしていくか。私が前に言った「伝える」と「伝わる」では違うといった内容は、まさにそこらへんは真摯に受けとめるべきだと思うんですね。そういう意味ではわかりにくい部分があったんじゃないかなということは反省すべきかなというふうに思います。

それと、3点目は23ページを見ますと、その他の254件というのがかなりボリューム的には大きくて、しかもその他のその他が144になっているのは、これは多種多様な意見があったという理解でいいんでしょうか。ちょっとこの説明をいただければ有り難いと思います。

事務局

いろいろと意見をいただいたて、資料3の86ページ、今回P1で、那覇空港の関係でいろいろと聞いたんですけど、それに反映できない部分、その範疇から外れる部分ということでいろんな意見を出されている方が多くて、観光政策ですか、もう少し広い意味で意見を出される方も結構あったというので、そのあたり関心はあるけれども、なかなか直接、今回の那覇空港という観点ではちょっと外れるかなと思います。沖縄県としてはこういうことをやってほしいという意見があると思いますけれども、この中では盛り込みづらいといったことで今回はその他という形で外しています。

崎山委員

はい、わかりました。

上間委員長

自由な意見と申しましょうか、意見の分類の仕方ですか、崎山さん。若干、工夫が必要かなということですね。

崎山委員

やはり意見ですので、どちらかと言うと、やっぱりわかりにくかったところが実際は多いよということを私たちは肝に銘じるべきかなと実は思ったものですから、「わかりにくい」と「わかりやすい」に分けるとすると、「内容を充実すべき」というのはやはり「わかりにくい」という形で組み入れて、しっかりと取り入れたほうがいいかなと思いました。

事務局

いただいたご意見、また反省して、少し中身のほうも吟味したいと思います。それから、テレビCMの関係、先ほどご指摘いただいたて、実施の内容だけ。3局で40回という話ですけれども、8月に1か月間で行っています。平日は出勤時間6時～8時の間。それからゴールデンタイム19時～22時の間。就寝時間22時～24時の間で基本的に流していると。それから、土・日は終日ある程度、朝・昼・晩、まんべんなく流している形です。ただ、平日は朝と夜。土・日は朝・昼・晩という形で流している。どの時間帯がどれだけ見られたかというのはデータをテレビ局のほうにいろいろと確認はしているんですけども、なかなか出してもらえない部分が実際ございまして、平均的な視聴率が12%という話で、各テレビ局でどれだけだったというのはちょっと細かいデータが得られていない部分がございますけれども、その時間帯で、そのテレビでの視聴率は平均12%程度ということでやっております。

崎山委員

あと、もう1件。ラジオなどで使えるので、県が持っている「ラジオ県民室」とか、那覇市ですと「那覇市民の時間」というのを毎日やっていますね。多分、月・金、月・土でやっているかと思いますけれども、そういうふうな広報の活動も含めて、これ、おやりになったんでしょうか。

事務局

7ページのほうに、事前の周知の関係ですけれども、県政テレビの番組ですね。それから下から2段目です「那覇市民の時間」とか、そのあたりは周知活動として利用させていただいております。

崎山委員

7回。優秀ですね。

上間委員長

私のほうから。今の崎山さんのご意見とも関連するかもしれません、16ページ、情報が理解されたかという統計がございますが、黄色いところが無回答ということは理解されていないというふうに、ここでは理解していいんですか。そういうことですか。

事務局

16ページの黄色い部分は「よくわからない」。それから、何も書いていない人、理解されていないのか、そのあたりちょっとわからないんですけども、アンケートの中では回答がなかったと。

上間委員長

表向きは理解されていないというふうに判断せざるを得ないんですかね。

事務局

「理解する」ほうには、ちょっと入れられないのは確かなんです。

上間委員長

廻先生、この数字なんですけど、理解されていないという前提をすると、この20%だと10%ありますけれども、これはどうなんでしょうかね。普通のアンケートの回答では。

崎山委員

厳しいんじゃないですか。

廻委員

理解されないとおれますよね。それほど、結果はこういう程度かなという感じはするんですが、逆に言うと7ページのところの、例えば15秒のさっきのテレビCMというのは理解させるためのものではなくて、PIをやっているよ、ということですよね。やっているよということだとすると、例えば40回、1か月、3局というのはほとんどもう目に入らない量なんですね。入らないといったら失礼ですけど、難しいです。

それと同時にテレビのCMというのは物をつくる、クリエイティブコストとメディアコストの割合というのがありますし、メディアコストよりクリエイティブコストが高かったりするとおかしいわけですから、やはりメディアコストと、つくったらどれだけ活用するかで、これは今後も使えるのかもしれませんけれども、

40回で1か月で3局というのは、結構、コの字型にとつていらっしゃるんでしょうけれども、メディアをとるときにも。よくあるんですね。逆Lとか、メディアの取り方というのがあるんですけど。ただ、普通、テレビコマーシャル効果をはかるときは、GRPというのではかるんですね。でも、多分とても低いと思うんですけど。

ですから、もう少しテレビを使うのであれば、もうちょっと度胸を決めて使ったほうがよかったです。半端じゃなくて、もう少しある程度のアウェアネスを上げるためににはどの程度やつたらいいというのをちゃんと代理店に出してもらって、メディアコストとクリエイティブコストのバランスもとりながら、40回じゃなくてもうちょっと増やしてもよかったですのかなという気は多少しますね。

違う例ですけれども、全然桁が1,000倍違うんですけど、普通何かやるときにぽーんと有名にさせるのは、ある程度広げるやり方の典型的な例がソフトバンクなんですね。テレビでは映っている、看板は出ている、行けば何かやっているというのを一気にやる。だから、ぱらぱらとやるとせっかくやってもあまり効果がないので、テレビやるんだったら一時期に詰めて。そんなにメディアコストは地方局は高くないですね。高いですか。

事務局

それなりの金額はかかりています。

廻委員

じゃなかつたらやめてしまうか。どっちかなんだと思うんですね。やるならやるか、やらないか。ラジオにしてしまうか。ラジオだと今度はPIを説明するにはいい。これが悪いと言っているんじゃなくて、次の反省で、もっと詳しく説明しなければならないときに、どういうメディアを使うかというときの参考の意見なんですけど、これはこれで私は別に、これが悪いと言うんじゃないですが、もっとベターになることを次のステップのためにどうしたらいいかということなんですけど。先ほど崎山さんがおっしゃったように、テレビのところはなかなか目にとまらなかったかもしれないなど。

事務局

ご指摘のとおり、6ページのアンケートの回答が1,300しかないんですけども、この中でCMでどれだけ、あるいはテレビニュースだと若干違うんですが、テレビCMで4.5%の方しか、その4.5%をどう見るかなんでしょうけど、回答としてはこの数字でしかなかったということです。

いただいたご意見を踏まえまして、もう1回流し方も含めてやる、やらない。それから、やるのであればどういう流し方があるのか、もう少し事務局サイドのほうで検討させていただきたいと思います。

堤委員

実は、先ほど福岡から出張帰りでそのまま空港から来たんですけれども、私、飛行機の中でふと思っていたんですが、なんで飛行機の中にこれがなかったのかなと。要するに飛行機の中というのは仕事をしていることが多いんですけども、結構暇な場合が多いので、こういうものがあると中で読むんじゃないかなと思いますね。

ちょっとマニアックな話になるのかもしれませんけれども、空港を利用する人が直接必ず目にするものというのは、飛行機の中のこういう印刷物なんですね。だから、航空会社に協力を求めてこれを配ったほうが効果が上がったのかなということは1つ言えると思います。

さっき言ったように、ちょっと両極端の感覚が出てきているものですから、この自由意見の中にもどうでもいいというような意見も結構ありますし、要は調査報告書に対する回答を求めているわけですよね。調査報告書の中身をしっかり読まないと、これ回答できないわけですね。ですから調査報告書を読む時間のない人は、こういうDVDなんかを見せてもらうと非常にわかりやすいんですけども、これを読まないとわからないというのは例えば、こう言ったら大変失礼かもしれませんけど、普通の主婦の方なんかにとっては多分苦痛なんですね。学生に読めといっても読まないものですから、無理やり教え込んでやらなければしょうがないという状況ができていますので。

一方では、空港に対して文句を言いたいとか、あるいは提言したいという人が山のようにいまして、そういう人がこの中に多数の意見を寄せさせていただいている。説明会のときにもこの調査報告書に関係のない意見がぽんぽん出たりするわけですね。一方では、あまり関心がない。このへんをどう相殺していくか。これはテレビCMでは多分無理だろうと思います。

一方では、やはり飛行機を実際に利用する人にこれを読んでもらうために飛行機内に置くという方法もあると思いますし、もう一方は本当に関心のない一般の方々については、もっと地道な活動、例えば市の広報誌というのが1つあると思うんですけども、もっともっと地道に公民館活動を活用するとか、そういう方法のほうがむしろよかったのかなという感じを受けました。

それともう1つ気になっていましたのは、ホームページのヒット数がステップ1に比べて半分ぐらいになってしまったという点が、これが一番気になっていたんですけども、情報を得る方法として、最近の傾向としたらホームページが一番多いと思うんです。その一番重要なホームページが半分程度になってしまったというのは、何か原因があるのかどうか。この点の分析をもっと進めていただければと思います。

それと、こういうPIをやっていますよというホームページそのものではなくて、それを案内するバナーといいますか、コマーシャル分の小さいポイント、県

のホームページにはもちろんあるというのを知っていますけれども、そのほかにどのくらいのところにバナーを載せてもらえたのかというのもちょっと気になるところなんですが、いかがでしょうか。

事務局

ホームページの関係ですけれども、ご指摘のとおり半減してしまったと。理由は何かというのを、中でもいろいろ議論はしているんですけども、現状としてはちょっとわからない。引き続き、どういった原因があるのか、分析のほうは続けたいと思っております。

リンクの関係ですけれども、総数がどれくらい貼られているか確認はしてございません。ただ、各市町村とかにつきましては、最低限このリンクを貼ってくださいということで市町村のほうにお願いをしていくつか貼っていただいている。そういう意味ではリンク数自体は増えているとは思っております。

堤委員

例えばJALとか、ANAのホームページには、貼ってなかつたですよね。これがあると私、予約するときに読むと思うんですけども。そこがちょっと足りなかつたかなと。

事務局

航空会社さんのほうとどの程度対応できるか、また、次回のステップで検討させていただきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

崎山委員

先ほど委員長からもご指摘があった6ページのほうの「参加者がPI活動を知った情報メディア等」の部分で、報告書の入手場所はこれが圧倒的ですね。ということは、報告書を今どこにどう置いているのかということを含めて、それが適切かどうかも含めてちょっと教えていただければなと思います。どんなところに今どういうふうに置かれているのかですね。

事務局

報告書は県庁内とか、各役所。それから空港、そういうところに一応置いておいて取っていただけるような形をとっています。あと、実際、アンケートの中で「どこで手に入れたんですか」という項目もちょっと聞いていまして、その中で多かったのは「空港」。それから「説明会」とか「オープンハウス」で説明の場を設定しているんですけども、そういうところでもらったという方が結構多かったと。それから、行政の「窓口」「モノレールの駅」という方もいらっしゃいました。あと、「パネル展示関係」と「インターネット」から当然そのま

まあとしている方も結構いらっしゃるという形で、順番としてはそのような順番でその割合になっているわけです。

崎山委員

今、那覇空港と結んでいる県内の空港はほとんど置いてあるんですか。宮古・石垣あるいは与那国ですとか。先ほど堤先生のアイディアはとてもいいんですが、私も一応これをやろうとして、飛行機自体が沖縄から全く関係のない地域に飛ぶようになっているものですから、なかなか難しいんです。JTAもそれが難しくなっていて、前はほとんど離島便はJTAがカバーしていたんですが、本土便をつなぐようになって、沖縄と関係がないところに行くようになったものですから、なかなか沖縄関係のものが載せられない。確実なやり方としては、せめて那覇空港と結ぶ県内の空港はこういうのを置いておくと、ふさわしい情報でもあるのかなと思ったんですけど、置かれているんでしょうか。

事務局

那覇空港以外の県内空港には置いてないということです。次回、置けるかどうかまた確認をいたします。県内分も含めて、それから県外のほうからもやっぱり先ほどのご意見もありますので、観光関係とか業務関係、県内から来られる方が多いので、そこらへんも含めて見方をちょっと考えたいと思います。

上間委員長

今回の調査は、前の委員会のご指摘、3ページにあることを踏まえて一生懸命やっておられて。女性の回答率を上げるために、いろいろご苦労いただきて、ソムリエの講演会まで開いて、女性のパーセンテージを上げたようですが、そのへの結果についてはいかがでしょう。

廻委員

確かに集まってよかったですねという感じですけど。私は今回は、なぜこんなにいろんなことを言うかというと、ほとんどこのような仕事をしていたことがあるので、説明して理解してもらうというのはすごく大変なんですね。コストも限度がありますし、人力・マンパワーも限度がありますけど。先ほど堤先生もおっしゃったように急がば回れ的な方法なんですけど、結局細かい説明会みたいなものを重ねていくというのが一番この種の理解をしてもらうというのを目的とすると、もちろん最初のフックは必要ですから多少広告とかいるんですけど、様々な機会を通して続けていくというのが一番役に立っているんじゃないかなと。

これで見ると周囲の人から、施設とかあります、あまりイベントからとかいう説明会というのではないんですが、知ってもらうというのと理解してもらうのは

また違いますから。ある程度理解をしてもらってアンケートまで結びつけるには、かなりいろんなチャンスをとらえて、大学も含めて、説明を 50 人ぐらいの規模でいいと思うんですけど、繰り返し、繰り返して、そのこと自体も 1 つの P R をやっているということにもなりますから。結局そういうことが、最終的には長くやると効いてくるかなと。というのはすごいお金があれば別、ソフトバンクみたいにお金があれば別ですが、ないわけですから。やはり伝道師というか選挙活動と同じで、小選挙区制度のドブ板系といったら変んですけど、やっぱり説明してもらって皆さんに理解していただいてということが、この中の割合で言うと、広告より広報に力を入れるべきではないかなという気はちょっとします。正道なんですね。結構、突然に認知も上がらないんですけど、でも長く積み重ねると結局はよいということになるような気がします。この種のものは。

行政番組の、例えば、これも繰り返し、繰り返し嫌というほどずっと続けてやるという、あるいは県政テレビ番組も切り口をえてずーっとやってもらうとか。ホームページも最初の、古いものだと 1 回見たらあれですから、常にアップデートして。

それから、私、概要版がもうちょっと概要でもよかったかなという気が多少します。ちょっと細かかったかな、単純に言うと字が多いというか。

崎山委員

これ委員として読みますけど、もし見ても、これを読むくらいだったらもっと別のものを読もうかなという気になります。もう少し P I の進め方についても、削ぎ落とすものとやっぱり見せ方、概要版はせめてこの調査報告書と違ってやっぱり。

廻委員

こっちはきちっとやる必要がありますよね。こっちはもうちょっと。

崎山委員

そうですよね。ある意味でテレビコマーシャルの 15 秒に匹敵するぐらいの P I の進め方が必要かなと思うんです。真面目にみんな込められているものですから。上間委員長はこれを読まざるを得ないと思いますが、関係なかったら多分読みにくいですよ、先生。

上間委員長

私は読みますので。

堤委員

読まないです。

上間委員長

私は暇がありますから。

崎山委員

もう少しチャーミングにしてほしい。

廻委員

知らない方は読むのはつらい。多分こういう内容のことを座談とか鼎談で話して、囲みでちょっと入れていくとか、具体的で申しわけないんですけど、例えば、那覇空港の現状についてとか、今、空港能力も含めて、将来のことも座談とかそういうことをしながらポイント・ポイントでコラムを入れていくような。そういうようなものでやわらかくして、こちらに結びつけるためのものですから、ちょっと堅かった、真面目な感じですけどね。一般の方はどうかなと。私も一般で見たら読まないと思う。

崎山委員

ですから、いろんな意見が出てくるのも、そういう意味ではぱっと見て、というふうなことにつながっているような気がいたしますよね。

堤委員

ただ、つくった側の立場に立って言えば、ここにある回答をいただきたいわけですよ。1～10までの。それに見合うだけの資料を全部盛り込まないといけないので、やむを得ずこうなっているということはあると思うんです。その点はかなり大変な状況だろうとは思います。1～10の回答というのを全部引き出そうとすると、やっぱり1枚では無理だと思いますし、2枚ぐらいは必要かなと。確かに多すぎるのはよくわかりますし、私も読まないと思うんですけれども、このぐらいでわかる程度に何とかなればいいかなという感じはします。

廻委員

本来的にはこれを渡して、これを答えるということ自体に無理があるんですね。正直言うと、このぐらいの長いアンケートをする場合は絶対、訪問なんですよ。このぐらい聞く場合は。もっと簡単なのはこういうアンケートを返してくださいと言うんですけど、このぐらい長くいろんなことをつべこべ聞くのは、行って「あなたおいくつですか」とか、いろいろ聞きながら説明しながら聞いていくような種類のものなんですね。これを会って説明して……。だけどこれだけ渡して取るので、なかなかそんなことをするとお金がすごくかかりますからできないと思いますから。例えばある程度これだけ詳しく説明をして、これに答えても

らうように概要版をぎっかり書いてあるとすると、ある種、幅広くというところは忘れなければいけなくなるわけですよね。

さっきの4番目の幅広くいろんな意見を聞くというのだと、ここを簡単にするしかなくて、どっちをとるかですよね。幅広くはならないと思うんですね。これをやるとやっぱり、理解、読もうという人は、まず目もいい人で、老眼鏡を出さなくていい人で、ある程度空港に非常に興味があるとか、そのことが自分のやっているビジネスと直結するとか。そうしたら読むと思いますけどね。琉球大学の学生でもなかなかいうんだったら、関係ない人はなかなか難しいかもしれない。そんなインテリの人でもそうだとすると。

上間委員長

いろいろご意見はありますけれども、これを読ませるということは実に難しくなった時代で。しかし、情報提供の質を落として、あまりはしょり過ぎて正しい情報が伝わらないということでも困るし。そのへんいろいろ幅広く意見を求めるということと、情報提供との矛盾がありますけれども、これはあまり情報の提供の質を落とすのはこれはちょっと問題がありますので。

民主社会はきちんとした意見をもった人間の集まりですから。関心のない人はしょうがないかな。ある程度しょうがないかと言うとあれですけど。

廻委員

そういう切り方もありますよ。それはそれで、そうだと思ってればいいと思います。

上間委員長

できるだけ簡略化して情報の質を落とさないで情報を伝える方法を、もし工夫するところがあればこれからも努力していただきたいと思います。

先ほど、堤先生からありましたホームページのアクセスが半分になったといふんですよね。これはやはりよく原因を分析していただきたいんですけども。これ分析というか、ある程度こういうことじゃないかということは、先ほど説明はなかったですか。

事務局

中でもいろいろと議論はしているんですけど、なんかねというのはちょっとわからないと。想定すれば、例えば関係者とかが去年頻繁にアクセスしたのが、関係者がアクセスしても1回に数えられるので、そういう可能性もあるのかなとは思いますけれども、ただ、データをあくまでも持っているわけではないので、なかなかそれがそうなのかと判然としないところがあると。

例えば、今の話は、事務局を担当している交通政策課の中で、どのぐらい各人

がアクセスしたかというと、例えば去年に比べてアクセスは落ちているねというのは多分あると思うんですよ。ただ、それがそんな絶対的に多い人数になるわけでは当然ないので、いろいろと去年広めた中で、そういうのをやっているのは知っているよという人がやっぱりいて、それはそれで今年は、去年2回ぐらい1回目のP.I.をやった時点で数回アクセスしたから、そのアクセス数がやっぱり減っているという可能性はあると思いますね。全く見ていないという話ではないと思うんですけど、頻繁さがなくなっているという可能性はあるのかなと思います。ただ、さっき言ったとおり、これはあくまで想定だけの話なので、本当にそうかと言われるとデータがないというのが実際のところです。

堤委員

ちょっと質問なんですけれども、去年より多少ホームページは重くなりましたですかね。容量。今年やったときに、電話回線なんか使った遅いものだと、ちょっと出るのに時間がかかったんです。途中で嫌になって止めてしまった人がいるんじゃないかなという気もちょっとしたんですけど。

事務局

コンテンツ自体はその前の年のも当然入っているので、その分は若干可能性はあると思うんですが。今、ちょっと初めて伺ったので確認してみます。

堤委員

ワイドバンドと言うか、早い通信速度のものだと、ぱっと出るんですけど、電話回線みたいに遅いのを使った場合はちょっと待っていられずに切ってしまった人がいるんじゃないかなという、そんな気もちょっとします。

事務局

わかりました。確認をしてみます。

上間委員長

時間がかなり経過しておりまして、本委員会でどうしてもまとめなければいけない、先ほどの評価の案がございます。その文章のあり方も含めて、内容を含めてこれで結構だというご意見もよろしうございますし、何かございましたら、ここのところはどうかというようなところをご指摘いただけないでしょうか。

廻委員

寄せられた意見に対する対応というところで、もうちょっと書いてあっていいかなと。例えば23ページにあるその他、利便性の向上に関する意見、いろいろあるんですけども、本当は関係ないんですけど。「今後とも関係機関と調整

を図り、利便性及び向上に努めてまいります」と書いてあって、いかにも役所なんんですけど。1行ずつもうちょっと書いてあってもいいかなと。量が少なくないかと。3行ぐらいあってもいいんじゃないかと。

環境問題に対するご意見だったら7件ですからいいんですけど、この168件、その他だからたくさんになってしまうんですけど、件数が多いところは多少の行数がないと何となく真面目に答えているイメージがしないかなと思って、もうちょっと深くいってもいいかなという感じがします。

それからあと、シンポジウムとかありますよね。説明会とか。これは集まった人数とかも入れたほうがいいんじゃないですか。広告の7ページとか、もう少し規模がどうかわからない…。新聞もどのぐらい出したというと、1ページ出たのか、これだけ出たのかわからないので、もうちょっと情報は入れてあってもいいかなと、ここの全体ですけど。7ページ、8ページ、9ページ。

というのは、調査報告書は2万1,473部とかいって細かいのに、新聞広告とかいうと、ただ新聞と書いてありますし、それからシンポジウムなんかもただ何回と書いてあるだけで、何人来たのかがないので。

上間委員長

新聞の件はどこか詳しく……。

事務局

11ページ、12ページあたりがその結果なんですけど、そこで人数とかは入れさせていただいております。あと、新聞の記事はその後ろに。

廻委員

朝刊2面だから、大きさは書いてないですよね。

事務局

それは参考資料のほうですね。一応、参考資料自体も公表する予定にしております。

廻委員

参考資料じゃなくて、通常は新聞、版5段やりましたとか、1ページやりましたって、普通言わないとなんか新聞だけじゃ全然わからない。

上間委員長

新聞記者の方、記者会見かなんかの記事ですか。

廻委員

記事はいいですけどね。

事務局

広告は、例えばステップ2の実施状況ということで7ページが一応、新聞記事の掲載ということで、テレビ欄の下ですね。そういったところにこういう形で広告を打っているということです。

廻委員

それだったらテレビ欄の下というのは非常にメディア効果がいいところという意味ですから、こういうメインのところに書いておいたほうがいいと。レギュラーの下とか。

事務局

わかりました。

上間委員長

先生、肝心の評価のところはよろしゅうございますか。

廻委員

評価はちょっとさっぱりした感じはしますけれど、まとめのところですか。1個1個のね。

上間委員長

各視点ごと、それからまとめがあって。

廻委員

そうですね。そういうことを言うと、全部に影響してくるんですけども、このぐらいの分量で言うならばこのぐらいのことになるかなという感じではあります。スペースがこれぐらいだと、例えば評価のところですよね。そんなにたくさん書かないわけですから、いいんじゃないですかね。

例えば、「P I活動が適当に行われたか」。周知されなかったと書かれてもいいかな。このぐらいの量で言うと、こんなものかなという感じがしますね。ただ、多少の反省も少し。例えば、13ページなんか5割程度にとどまったところはありますけど。次のステップに対してこういうところは反省だというものも多少入ったほうが評価らしい感じになるので、あまり自画自賛で終わってしまうと。

上間委員長

1つ事務局に伺いますけれども、最後の24ページにまとめの評価があります

ね。今日ご議論いただいて、いろいろご指摘いただきましたが、あまり詳しく書くことはできないかもしませんが、今後の課題のところに、今日いろいろ出た意見などは追加していただくんでしょうね。

事務局

昨年、実際の記録という形で冊子のほうをつくっておりまして、その中で報告書、これは私たちのほうがこういう報告ですというふうに挙げさせていただいてありますので、それに対してご指摘いただいた点もとりまとめて付け加えるような形を考えております。

上間委員長

あまり具体的な表現で書くわけにはいかないんでしょうね。今日の意見もですね。

事務局

概要という形になると思いますけれども、いただいたご意見は整理するようにいたします。

上間委員長

いろいろ出ましたが、そのところにちょっと加えて今後に反映していただいて。これお願いいたします。

堤委員

最後のところをもうちょっと。

上間委員長

評価のところで、何かございますか。

堤委員

各評価観点、4つの観点が立てられていますが、例えば17ページ、「情報が理解されたか」という話に対しまして、今、4つの が付いていまして、それが24ページのまとめのところでは2つの に減っているんですけれども、よくまとめて2つに減らしたというのか、どこか2つ外してしまったのかよくわからないんですけれども、いずれにしろ、17ページに書いてあるお話と、24ページに書いてあるお話、そのほかの何ページでしたっけ、ありますよね。10ページのまとめと。

上間委員長

これ整合性ありますよね。

堤委員

整合性はしっかりとついていただくというのが重要なポイントだと思います。

それと、やはり一番気になるのは、情報が理解されたかというところなんですが、概ね理解されたという結果で、問題はないと思うんですけれども、正直言いまして、あまり読まれていないというものもあるわけですね。そのところもできれば反省点として書いておいたほうがいいんじゃないかと。よくわからないという回答もこの中にありますよね。ですから読まれてない可能性もあるということは残念な点ではあるんですけども、気になるところです。

それともう1つ、全体の話で申しわけないんですが、この「実施報告書案」になっていますけれども、この「案」がとれたものが公開されるわけですね。公開はだれに向けてといいますか、それはどうされるんでしょうか。これ印刷物として出回るということでよろしいですか。

事務局

印刷物として整理する部分がございますけれども、それは関係団体とか、広く一般という形では多分出せないと思います。ただ、ホームページ上では今回のとりまとめ報告書、それから実施状況、それから個々人の意見、資料3も含めて全部ホームページ上では掲載する予定にしてございます。

廻委員

評価のところなんですけど、最後のまとめの、さっきおっしゃったように前のところと整合性もあるんですが、整合性がまず大事ですけれど、その評価は褒めるところと、1個に1つぐらいは多少こういうところもあったなというのがあつてもいいかな。今後の課題で2行、2つポイントだけではなくて、適切に行われたかというのは適切に行われたんだけど、ちょっと反省も1つぐらいあると思うんですね。

それから、情報が周知されたかなんていうところはもうちょっと反省すべき面もあると思うんです。理解されたかも、本人が理解したと言っているだけで、意外に理解できなかったという人はよく読んでいるけど理解できなかったというので、そっちのほうが読んでるかもしれない。わからないので、多少、少しこの評価のところに軽くでいいんですけど、こういうところは次回のインボルブメントというか、したいなというのも入っていてもいいかなという感じがします。それぞれのまとめじゃなくて、それぞれのところに。

上間委員長

読ませるのも大変でしょうけど、読んだ人がわからないという、これもやっぱ

りわかるようにする必要がありますね。16ページの、先ほどから私申し上げておりますが、これは理解ができなかったから無回答になったという判断を前提にすると、このパーセンテージはもっと少なくするようになります。読んだ人にはしっかり理解させるというところも必要ですね。崎山さん、この評価のところについてご意見いただきましょうかね。

崎山委員

どういうふうに見るかですけれども、やっぱりもう少し意見を出した人たちが反映されるといいなというふうに思いますね。読み方をこうすると、ある意味で評価につながるとかというやり方ではなくて、先ほど先生がおっしゃったように16ページの表の読み方も、どう受けとめるかによって違ってきますよね。そういう受けとめ方というのでいくと、やはり理解されていない部分をなお持っているということは、自覚しなければいけないんじゃないかなと思いますので、廻委員と全く同じで、今後の課題のところでしっかりと述べる必要がありますし、私もA3判の意見に対する考え方にはもう少し真摯に受けとめて、意見に対して対応したほうがいいのではないかと思っております。

上間委員長

最後のページのA3のご意見に対して回答が紋切り型らしいんじゃないかとありますが、これについては、今、回答しづらい面がありますよね。これはステップ3でこのへんに対する回答がもう少し具体的に出てくるというふうに期待されるところですか。

事務局

今回の私どもの見解というか、その対応の考え方みたいな形で、一応今回の報告のほうはさせていただければと思います。当然、ご指摘のとおりまだ足りない部分とか、やっていかなくてはいけない部分もございますので、それは次回、ステップ3のほうで、当然反映するべき話だと思いますので、そちらのほうで今日いただいたご意見も含めて対応させていただけたらなというふうに思います。

廻委員

もっとたくさん意見を、今、述べろということではなくて、意見に対する考え方というのをちょっと紋切りだなと。もう少し丁寧な感じで。1行が2行になっても、3行になっても内容は変わらないと思うんですけど。もうちょっと何か受けとめた感じという表現があってもいいかなと。ちょっと冷たい感じがするんです。

崎山委員

そうですよね。「対応してまいります」とか、「努めてまいります」。1行で言わざると絶対違うんだと、県民は思ってしまいます。書いた人はそうですが、受けとめる県民の多くがその一言に、むしろないほうが創造力が膨らむんですね。そのような表現の部分だと私は思うんです。全く紋切り型というは何もないより、むしろきついかなと思います。

上間委員長

いろいろ先生方の評価に対する、すべてじゃないんでしょうけども、いろんな意見をいただきましたが、内閣府、それから国土交通省からわざわざいらしておりますので、何かコメントできますか。大津さん、ございましたら。

大津企画官（国土交通省）

では、一言。ご存知だと思いますけれども、パブリック・インボルブメントは初めての試みでございまして、今、同時並行して福岡と両方やっております。ご存知かもしれませんけれども、福岡のほうは実はもっと丁寧な資料をつくっておりまして、この調査報告書の半分ぐらいが概要版、詳細版というのはこの3倍ぐらいあるんですね。確かに今日ご意見を聞いて、私も見ながら感じているんですけども、見ると内容が盛りだくさんなので、細かいと言えば、これだけのものをこれだけの概要版にしてもご説明しますので、詳しさが足りなくてわからないという方と、そもそも字が小さくて非常に見る気もあまりしないという、いろんなわからないという方がたくさんいらっしゃると思うんですね。そのへんのところをもう少しあっしゃるように、今日はいろんなご意見を伺いましたので、ステップ3に向けて、やはり全部読んでいただかなくともある程度はわかって、より読む人はホームページとか、詳細版とか見てより詳しくなるという、そういう最大公約数的な組み合わせというのはやはり難しい、我々、手探りでやっていても難しいなというのを感じますし、そういうことを100点は取れないと思いますので、今、60点でしたら65点、70点を目指してやるということが一番大事なんだろうなということを改めて感じましたので、また、皆さんと知恵を絞ってやっていきたいと思います。

特に、本当に大事なのは個別の意見、これをやはりよく担当、我々も含めていろんなわからないといいますか、わかりにくいというのがここに反映されていますので、このアンケートで何パーセントというと、なかなかそこにどういうものが含まれているのかわかりませんので、そのへんをもう少し見なくてはいけないなど。

那覇空港のよりよいものをつくっていくためということと同時に、こういったP.I.というものが新しい試みですので、今後ほかにもいろいろ生きていく面もあると思いますので、これだけの時間とお金をかけてやっていますので、そういうものがより次の世代まで生かされる、那覇だけではなくてほかにも生かされると

いう視点でもってよく分析しているということが大事だなということを改めて感じましたので、また我々も勉強していきますので、ご指導、ご意見よろしくお願ひいたします。

上間委員長

どうもありがとうございました。篠さん、一言。

篠専門官（内閣府）

今日この委員会の中で2つ大きなところで議論されたと思うんですけど、1つ目が報告書がわかりにくかったのか、わかりやすかったのかということで、最初私もこの報告書を手に取ったときに非常に難しくて、ご意見いただけるのかなと感じたんですけど、今、ちょっと大津企画官のほうからも話がありましたように、福岡空港のパンフレットというのはすごい厚いんですね。それを見たあとこれを見たら、こっちのが非常にわかりやすいなと。そういう考えをもったんですけど。

確かにこの報告の中身なんですけど、だんだんステップ1からステップ2ということで本格化てきて、航空需要予測ということと空港能力の見極めという今回のテーマでしたけれども、だんだんこの中身が本格化してきたので、中身がちょっと難しくて、そのところがちょっと理解しにくかったかなと思うんですね。理解できた人と、ある程度理解できた人を足すと75%ということですけれども、16ページの理解度を見ますと、「4ケースの需要予測を想定」したことというのが31.4%で、ここが一番理解できた人が低いわけで、中身が難しくなってきてるのかなというふうに思っています。

そういうことで報告書の出し方がちょっと文章が足りないとか、書きすぎているとか、そういう議論もそうですけど、ちょっと中身が難しいのかなと思っております。

それからもう1点、これも議論がありました意見に対する対応ということで、22ページと23ページで対応が載っているんですけども、ステップ1からステップ2、ステップ3とだんだん提示する資料の中身も難しくなっていくわけで、それに対して専門的な意見が多くこれから出てくると思うんですね。今回の細かいご意見を何件もいただいて、これちょっと全部まだ読みきれてないんですけども、ここの中にいらっしゃる方が意見を出したんじゃないかというふうな非常に専門的な意見もございます。

ちょっと言い方は悪いんですけども、とりまとめに大変苦労されていると思うんですけども、こういった大きくくくった回答だけではなくて、その中でも非常にいい意見というか、反対意見というものに対しては個別に特出しして回答したほうがいいんじゃないかと思ったりします。

例えば細かい意見の中の69ページ、上から6つ目の意見なんですけれども、「会場からいろんな意見が出ていたと思いますが、県としては「慎重に受けとめる」

とか、「ご意見ありがとうございます」という言葉がほとんどで、ただ形だけの説明会を開いたように感じますと。本当に市民、県民の声を聞く参考にしようという思いは全然感じられません」と。非常に厳しい意見がありまして、これは中身はちょっとバリアフリーのことなんですけれども、これ以外にも専門的な今回の需要予測とか、空港の見極めについてのご意見もあるので、意見をくださいということで、一方的にもらうわけではなくて...。ちょっと言いたいことを言ってしまって申しわけないんですけども、そういった特に反対意見の方、その人には個別に意見を差し上げたほうがいいんじゃないかなと、そういうふうに感じております。以上です。

上間委員長

大変ありがとうございました。

私が総括したい意見は、大津さんと篠さんがしっかり言っていただいてありがとうございます。改めては申し上げませんが。いろいろメモしてあるんですけども、委員長としてのお願いは、ただいまのいろいろ出てきた意見を 24 ページの今後の課題のところにしっかりまとめて書いていただきたいと思います。

このへんでよろしゅうございますか。どうしてもあと少し。先生。

廻委員

1 つだけ。私は一番最初に航空分科会の委員になったときは全然航空はわからなかつたんです。突然、「上下分離」と言われて何のことだかわからなかつた。これはやっぱり業界語なんですよ。今、何年も経つてだいぶこの航空のことに詳しくなりましたけれども。ですから、「ご意見聞かせてください」と言っているわけですから、意見がとれるようにわかりやすいようにというのはある程度必要だと思います。ただし、おっしゃったように幅を取るといつても、あまり省略したら意味も内容が伝わらないとか、難しいことは非常によくわかるんですけども、そういうギャップがあるという認識はしていただきたいと思います。

上間委員長

よろしいですか。これで委員の間のディスカッションは終了したいと思います。事務局にお返しいたします。

司会

委員の皆様には貴重なご指摘、ご意見等、賜りまして大変ありがとうございました。

最後に事務局から 1 つだけお願いでございますけれども、本日の議事をまとめ際、資料等にもし軽微な脱字・誤字等がございましたら事務局のほうで修正させていただくということでご了解いただきたいと思いますがよろしいでしょう

か。

(委員承諾)

それでは、以上をもちまして第4回の那覇空港調査PI評価委員会を終わらせ
ていただきます。大変ありがとうございました。